

## 地域の特別支援教育を担う教師を対象とした 自立活動の研修の展開と担い手の育成

企画者	宮崎 亜紀	（熊本県立菊池支援学校）
司会者	宮尾 尚樹	（長崎県教育庁）
話題提供者	佐仲 健吾	（長崎県立諫早東高等学校）
	松岡 恭平	（福岡市立今津特別支援学校）
	大櫃 玲子	（福岡市立西都小学校）
指定討論者	菅野 和彦	（文部科学省特別支援教育調査官）

KEY WORDS: 自立活動 研修の在り方 地域の特別支援教育

### 【企画趣旨】

特別支援教育を受ける児童生徒数は、少子化の中、増加傾向にある。つまり、障害のある児童生徒に対して、教育を行う教師も増加している。特別支援教育においては、自立活動の指導が各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っているのだが、自立活動を正しく理解して学習が展開されているかというところが限らないのが現状で、自立活動を正しく理解し実践を行えるようにすることは喫緊の課題である。また、限られた圏域においては、十分に研修を実施できる担い手が不足していることも課題である。

そこで、2019 年度より、九州地域を中心に有志による「九州自立活動ネットワーク」を組織し、自立活動の研修の在り方や研修の担い手の育成について情報交換を行ってきた。時に、担い手の拡大、自立活動について正しい理解、またその実践を支える人材の育成については、広域性を持って対応していく状況の工夫を模索、構築してきた。

本シンポジウムでは、特別支援学校内における研修でも、働き方改革で特設した研修の時間を確保することが難しくなってきた中で、担い手の育成を含めて工夫することで、それぞれの学びに繋げていることや、特別支援学級の担当が増えている中でそこをどう支えるかについてなど、それぞれの場における具体的な取組について話題提供し、自立活動の研修の在り方や担い手の育成について協議したい。

### 【話題提供の趣旨】

#### 1. 特別支援学校における校内での自立活動の指導を推進する担い手の育成に関する取組（佐仲健吾）

長崎県内には特別支援学校が分校を含め 17 校あり、校務分掌として自立活動部を設けている学校が 7 校、研究や相談支援を担う分掌の中に自立活動に係る業務を位置付けている学校が 7 校ある。

肢体不自由特別支援学校 A 校は、校務分掌として自立活動部があり、且つ自立活動に関する諸業務を担当する自立活動専任が校内人事により配置されている。毎年 30 名前後の教師が入れ替わる中でも専門性を担保していくために、個別の指導計画の手続きに沿った研修や協議の機会を設定している。これらの研修の機会を企画し、推進していく教師の力量によって、研修の成果も比例してくると考えられる。そのような中、自立活動専任が研修の機会を企画する中で、自立活動に関する研修の担い手の育成にも取り組んでいる。

今回は A 校の自立活動専任が自立活動に関する研修会や目標設定会などの中で、担任教師の専門性向上だけでなく、後任の自立活動専任の育成に向けて行っている取組や工夫について報告する。

#### 2. 特別支援学級における自立活動の指導の担い手の育成に関する取組（松岡恭平、大櫃玲子）

福岡市は、政令指定都市による独自採用を行っており、特別支援学校と特別支援学級の人事異動がある。そのため、ネットワークを構築したり、情報を共有したりする機会が多い。しかし、特別支援学校では、自立活動の指導力向上に向けて校内研修等を進めているが、特別支援学級においては、校内研修や個別の指導計画の立案、指導実践をサポートする仕組みが十分ではない現状があった。そこで、ネットワークを構築しやすいという特性を生かし、特別支援学級担当教師を対象として、実態把握から指導目標設定までの手続きについての理解を促す研修を実施した。今回、この実践から考え得る特別支援学級のニーズを踏まえた研修の在り方などについて提案したい。（松岡）

特別支援学級の担任は、最大で 8 名在籍する児童生徒の個別の指導計画を作成する時間の確保や、個々の実態に応じた指導実践の在り方について課題を感じていることが多いが、その課題に応じた研修や相談相手は学校内で確保できていない現状がある。そこで、筆者は、特別支援学級、特別支援学校の教師がともに学ぶことのできる場において、自立活動の個別の指導計画の作成の手続きについて学んだことを活かし、実践することはもちろん、自立活動の実践を通常の学級担当教師を含む全職員に報告することを通して特別支援学級の教育課程についても理解する場を設けた。更に、他校の校内研修で、通常の学級の担任への理解を促したり特別支援学級の担任と悩みを共有したりした。この実践をもとに、小学校内での自立活動での研修の在り方について話題提供したい。（大櫃）

### 【指定討論の趣旨】（菅野和彦氏）

特別支援学級や通級による指導を受けている児童生徒数の増加により、自ずと指導する教師も増えることになる。そのため、指導する教師の中には、特別支援学校の免許をもたない教師、障害のある児童生徒に対して指導経験のない教師が自立活動の指導をすることも少なくなく、専門性の向上は喫緊の課題である。

また、自立活動の指導は、個々の児童生徒の的確な実態把握に基づき、指導すべき課題を明確にすることによって、個別に指導目標や具体的な指導内容を定めた個別の指導計画を作成して指導するという特色がある。そのため、経験年数のある教師でも、指導目標や指導内容の妥当性等について、不安を持つ教師が多いと聞く。

このような現状と話題提供を踏まえ、自立活動の正しい理解をはじめとした学校や地域での研修における研修の在り方、そして、次の担い手への継承とそれを支える人材育成の在り方等について協議したい。

（MIYAZAKI Aki, MIYAO Naoki, SANAKA Kengo,  
MATSUOKA Kyohei, OBITSU Reiko, KANNO Kazuhiko）